

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	倫理学特論	医療の場における倫理的課題を明らかにし、倫理的な意思決定を行うために、医療における倫理の主要な概念について考究する。さらに、倫理的アプローチの方法論に関する学習を通して、倫理的に判断し調整できる能力を学修する。	
共通 科目	プロフェッショナリズム特論	医療専門職として必要なプロフェッショナリズムについて、価値観の多様性や専門職としての説明責任、法と倫理、〈よい〉医療専門職、専門職の社会的責務といったキーワードを軸に、アクティブラーニングを用いて、倫理的思考を育てます。	
共通 科目	コミュニケーション特論	コミュニケーションとは、情報伝達や意思疎通だけでなく、感情を共有し、交流を図る行動が含まれる。コミュニケーション能力は、相手に自分の考えを伝えるためのスキルを指す。特に、学術論文作成においては、論理的思考力と論理的表現力が求められる。本特論では、客観的な文章構成力及びコミュニケーション力について学ぶことを目的とする。 （オムニバス方式／全8回） （全4回）コミュニケーションの基礎と分類、抄録の書き方について学ぶ。 （全4回）学会発表での伝え方、論文の書き方について学ぶ。	オムニバス方式
共通 科目	国際医療学演習	国際共通語としての英語の実態について、使用域、音声・統語的特徴、国際コミュニケーションにおける留意事項等について講義と演習を行い、さらに諸外国の医療事情、健康・環境問題等について英語で発信された情報にあたり自らも英語で発信できるようになるための演習を行う。	
共通 科目	研究方法論Ⅰ	まず、研究者としての科学的である姿勢を、その時々において倫理的にも正しいと認められる姿勢と両立させるための基本的な考え方を理解する。個々人が行おうとする研究が、科学的に妥当なものと認められるための要件を理解し、また研究に必要なデータの収集に係る適切な計画を立案し、適切な分析手法により分析を行う技術的な能力を身に付ける。 機械学習やディープ・ラーニングのような最新の情報処理技術の自らの研究への適用の可否等についても妥当な判断ができるように、可能な限りシミュレーション等の実践的な経験を通して、その概要の理解を進める。	
共通 科目	研究方法論Ⅱ	質的研究の意義と特徴を理解し、研究における理論の重要性、研究デザインと方法、研究結果を実践に活用するためのクリティックについて理解を深める。 また、質的研究方法として、主要なアプローチ方法を理解し、データ収集方法および分析方法を中心に、その妥当性の吟味について理解を深める。 （オムニバス方式／全8回） （全4回） 質的研究の特徴、質的記述的研究、グラウンデッド・セオリー・アプローチとデータ分析の実際を教授する （全4回） エスノグラフィー、現象学的アプローチ、研究のクリティックとデータ分析の実際を教授する	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	統計解析評価学特論	統計学の発展の歴史を踏まえて、現代の統計学の考え方を理解する。 確率論から記述統計、推計統計、またベイズ統計の再発見、等々の生起を追体験し、その都度に確立された手法をその基本となる考え方と共に理解する。また、併せて最新の統計処理アプリケーション等情報処理技術に触れ、個人々の必要に応じた利用を可能とするための基礎知識を身につける。	
共通科目	教育学特論	教育の本質と学校の任務、日本の近代以降の教育と戦後教育改革の展開、子どもの捉え方をめぐる学習観の転換と、現在の状況を学び、OECD/PISAの達成度評価を契機にしたリテラシーと評価、等を見ながら日本の教育のこれからの現在の課題について深める。	
共通科目	教育実践学特論	教科の教育内容・教材の再編による実践、特別活動での実践の事例を通して教育実践のあり方を学ぶ。さらに医療の専門的な実践は、実践とその省察とを長期にわたって展開するプロセスとその組織・システムの形成を求めることを学び、自らの専門的力量形成の展開に資する。	
共通科目	専門職連携論	Interprofessional Work ; IPW（専門職連携実践）の発展の歴史、基盤となる理論と実践方法およびその教育方法である Interprofessional Education ; IPE（専門職連携教育）の意義について教授する。 保健医療福祉教育の連携実践場面における課題解決にむけて、IPWの視点で分析しIPWを促進できる力を培う。 （オムニバス方式／全8回） （全4回）IPW、IPEについて学ぶ。 （全4回）IPWの視点での分析について学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	運動器リハビリテーション特論 I	運動器機能障害治療における最新のエビデンスに基づいた基礎科学、評価・治療の基本概念、評価・治療の国際水準の技術を教授する。基礎科学としては神経筋骨格系の解剖・運動学、評価・治療の基本概念としては観察、運動機能評価、神経学的検査、診断学的検査と機能診断について講義する。技術では脊柱と四肢の評価・治療手技の実技指導を行う。評価治療技術には観察、触診、運動機能評価、関節包内運動検査、神経学的検査、診断学的検査と機能診断、神経モビライゼーションなどを含む。これらを医療施設における評価・治療、学校、スポーツ現場、地域における障害・外傷予防、健康増進のために実践する方法を学ぶ。	
専門科目	運動器リハビリテーション特論演習 I	運動器機能障害治療における評価・治療および臨床推論と地域、学校、スポーツ現場での実践方法について演習する。頭部および頸部、胸椎、腰椎骨盤帯、肩甲帯上肢、骨盤帯下肢、そして神経系の評価・治療の基礎技術と応用技術について実際の症例・事例を持ち寄って演習する。さらに、これらの評価・治療に関するエビデンスについて検討し、症例研究・事例研究を通じて臨床推論能力を向上させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	運動器リハビリテーション特論Ⅱ	各部位に代表的なスポーツ傷害の特徴を理解し、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理を理解する。スポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションの基本的考えを学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解する。 （オムニバス方式／全15回） （全2回） スポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーション概要、スポーツ外傷・障害総論について学ぶ。 （全13回） スポーツ外傷・障害各論、障害の評価、スポーツ理学療法の実際、アスレティックリハビリテーションについて学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	運動器リハビリテーション特論演習Ⅱ	各部位に代表的なスポーツ傷害の特徴を理解し、傷害に対する理学療法の目的と早期復帰に必要なリスク管理を理解する。スポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションの基本的考えを学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解する。	
専門科目	神経系リハビリテーション特論Ⅰ	神経系リハビリテーションは、脳血管障害や神経変性疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害を主な対象とする。これらの病態メカニズムや障害メカニズムについて学び、近年の神経科学の知見に基づいたリハビリテーションに関する研究に繋がるような基礎知識や研究方法を修学する。 （オムニバス方式／全15回） （全2回）研究デザイン、統計について学ぶ。 （全2回）脳血管障害、認知症について学ぶ。 （全1回）上肢機能障害とそのリハビリテーションについて学ぶ。 （全4回）高次脳機能障害に対するself-awareness、スライド作成について学ぶ。 （全4回）運動の動作解析、文献検索、統計について学ぶ。 （全2回）摂食嚥下障害の神経メカニズム、脳機能イメージングについて学ぶ。	オムニバス方式
専門科目	神経系リハビリテーション特論演習Ⅰ	研究倫理から研究計画の立案・発表にいたる研究の基礎を学ぶ。また、神経系リハビリテーション特論Ⅰの講義内容の理解をより深めるため、演習形式にて神経リハビリテーションに関する先行研究調査や研究法及び実際の症例に対する支援を学ぶことで、解決すべき研究課題をみつけ、討議しながら解決方法を探究する。 （オムニバス方式／全15回） （全5回）研究計画（クリニカルクエスト）について学び、文献抄読を通して理解を深める。 （全5回）研究計画（社会的背景、臨床的背景）について学び、文献抄読を通して理解を深める。 （全5回）研究計画（新奇性、目的、デザインについて学び、文献抄読を通して理解を深める。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	神経系リハビリテーション特論Ⅱ	<p>高齢者の身体的特徴は、加齢によって生理機能の低下が生じる。体の器官を構成している細胞にも老化は起こり、細胞数の減少や細胞の働きが低下することによって臓器の機能低下もみられる。また、運動機能の低下、感覚機能の低下、神経機能の低下等が加齢による生理機能の低下により生じる。高齢者の加齢の特徴を、神経学的観点から考え、高齢者の地域での生活を支援することを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （全5回）高齢者と地域リハビリテーション、地域包括ケア、災害対策について学ぶ。 （全5回）加齢による運動機能障害、高齢者の運動機能評価、介護予防・転倒予防と効果判定について学ぶ。 （全5回）在宅高齢者の生活行為向上マネジメントについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門科目	神経系リハビリテーション特論演習Ⅱ	<p>神経系リハビリテーション特論Ⅱの講義内容の理解をより深めるため、演習形式にて神経リハビリテーションに関する先行研究調査や研究法及び実際の症例に対する支援を学ぶことで、予備実験を通して解決すべき課題を見つけ、討議しながら研究計画を熟考する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （全5回）研究全般について学び、文献抄読を通して理解を深める。 （全5回）研究環境、使用機器、収集データについて学び、文献抄読を通して理解を深め、研究計画書作成に繋げる。 （全5回）解析方法について学び、予備実験を通して研究計画を修正する能力を身につける。</p>	オムニバス方式
専門科目	健康生活論	<p>健康生活を維持・継続していくための要因を追究し、日常生活で起こりうる健康問題についてあらゆる角度から科学的に明らかにし、解決する手法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （全4回）現代に至る健康概念の変遷と国民健康の現況を学ぶ。健康の維持と増進のための生活習慣を科学的に理解する。生活習慣の発症機序と予防を学ぶ。 日本の医療、保健、ライフサイクルからみた健康生活、生活習慣病と予防について学ぶ。 （全4回）精神心理学的側面および人間の行動学特性から健康の維持と増進のための理論と方策を理解する。</p>	オムニバス方式
専門科目	生涯発達学特論	<p>人は生涯発達し続ける存在である。心理社会的発達について、さまざまな理論を知ると同時に、人の生涯発達における各段階の課題について理解し、人が不適応を起こす際にどのようなことが原因となり得るのかを見立てるための基礎を身につける。本講義では人の発達理解と発達支援の枠組みを紹介した後、各自発達研究論文を講読し、議論する。臨床現場において、人間を発達の観点から理解し支援できるようにしたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康教育特論	<p>健康生活支援のための健康教育の理念や方法を理解し、各疾患の特徴に合わせた健康教育および研究方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(全4回) 健康概念の変遷、栄養素に関する健康教育について学ぶ</p> <p>(全4回) 生活習慣病に関する健康教育について学ぶ</p>	オムニバス方式
専門科目	健康政策論	<p>わが国の現状の健康政策について、諸外国の健康政策と比較しながら、文献抄読とディスカッションによって課題を抽出し、実務に即した未来への健康政策を提案する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(全4回) 健康政策の変遷、栄養政策について学ぶ</p> <p>(全4回) 成人・高齢者・障害者の健康政策について学ぶ</p>	オムニバス方式
専門科目	精神健康支援学特論	<p>人は、精神と身体の機能が保たれてはじめて、望ましい生活を送ることが出来る。従って、健康に地域で生活するためには、精神保健の知識が必須となる。</p> <p>まずは精神医学の概念や精神症状の捉え方を十分に理解した上で、良好なラポールを形成する精神科面接を実践できるようにする。統合失調症や気分障害を中心に、認知症や神経症、発達障害など精神疾患全般を対象とし、疫学、評価診断法、治療法などを学習する。更に、精神保健福祉や法、倫理について学んだ上で、現代社会において精神障がい者が、地域を拠点として健康に生活できるよう取り組める医療者となることを目指す。</p>	
専門科目	健康生活支援特論 I	<p>健康生活支援に関する理論を理解するとともに、生涯発達からみた健康生活支援の必要性および、各発達段階に起こりうる精神衛生上の問題と健康維持のための支援方法について学修する。本講義では、多職種が一同に講義を受けることを考慮し、多角的・多面的な視野や思考過程を養うために多岐に渡る分野の講師にて講義を行うことを特徴としている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(全2回) 健康増進への取り組み、および生活習慣病予防に関する支援について</p> <p>(全4回) 生涯発達に関与する愛着形成、およびウェルビーイングに関する支援および成人期・老年期における精神衛生上の健康を保つ支援について</p> <p>(全3回) 健康生活支援に関連する理論と小児期における健康を保つ支援について</p> <p>(全4回) 健康生活支援を支える理論と成人における健康を保つ支援について</p> <p>(全2回) 老年期における健康を保つ支援について</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	健康生活支援演習Ⅰ	<p>健康生活における研究や施策について討議し、健康の維持・向上に向けた健康支援策について学修する。 （オムニバス方式/全15回） （全3回） 病院における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援 （全5回） 授業のリエゾンと授業全体のまとめ 家庭における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援 （全4回） 職場・学校における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画作成の支援 （全3回） 市町村・施設における健康生活支援に関連した文献検討と健康支援計画の作成の支援</p>	オムニバス方式
専門 科目	健康生活支援特論Ⅱ	<p>健康障害を起こすメカニズムを解明するための方法に動物実験がある。動物実験を行うための方法と研究計画立案を学ぶ。さらにこれらを踏まえ、健康障害の一つとして創傷を取り上げ、健康障害を持った人々が健康を回復し維持する過程を支援する方法を学ぶ。さらにこの支援方法を発展させ、健康障害を持つ人とそれを取り巻く人々への支援方法について学ぶ。 （オムニバス全15回） （全2回） 動物実験を行うための安全教育と研究計画立案を学ぶ。 （全13回） 健康障害とは、創傷の予防及び治癒に関する教育や支援方法、健康障害を持つ人及びそれを取り巻く家族への支援方法について学ぶ。さらに験から得られた創傷の発生メカニズム・治癒過程の結果を健康障害からの回復・維持への活用方法を考察する。</p>	オムニバス方式
専門 科目	健康生活支援演習Ⅱ	<p>疾病から回復して健康な生活を取り戻し、新たな生活を作り出していく力を必要としている人々とその家族に対する支援について学修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別研究	<p>学生が選択した研究領域の中から、研究指導教員の指導のもとに決定した研究課題について、研究目的を達成する研究手法を見出し、実現可能な研究計画を立ててデータを収集し、データの分析、結果の解釈、考察を経て、修士論文を纏め上げる。また、研究成果を効果的に提示（発表）する手法も学修する。</p> <p>（小林康孝） 中枢神経疾患に伴う運動障害や高次脳機能障害における、脳の可塑性を考慮した神経回復メカニズムの解明とその治療や支援方法について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（供田文宏） 近年増加の一途を辿る生活習慣病の予防と克服のため、地域を拠点とした生活習慣改善の取り組みと実践について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（小俣直人） 現代社会において精神障がい者が、地域を拠点として健康に生活できるようになる取り組みについて具体的なテーマを決め、精神疾患に関する生物学的なアプローチや精神病理学的な視点も鑑みながら研究計画を立案する。調査や文献からデータを収集し、分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（林浩嗣） 中枢神経疾患に伴う運動障害や認知機能障害における、病態メカニズムを考慮した治療や支援方法について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（堀秀昭） 加齢によるバランス能力の変化を身体機能面からとらえ、その能力の維持・向上により、健康寿命の延伸に寄与するような具体的な支援方法を、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（藤本昭） 転倒予防に関する身体および精神機能評価とその介入効果についての研究方法を指導する。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>（堀敦志） 在宅高齢者の身体・精神的側面のみでなく、生活環境やサービス利用など様々な環境因子的側面や多職種とのマネジメントによる生活支援のあり方について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	特別研究	<p>(北川敦子) あらゆる対象の褥瘡などの創傷における既存の予防方法、治癒促進方法から健康な生活を再構築するための生活自体を中心においた新しい創傷ケアの開発を行う。そのために、文献検討、フィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。研究課題の解決のために研究計画の立案から、データ収集、データの解析、結果の解釈から既存の支援方法の検討および新しい支援方法を見出す。この一連のプロセスを継続して論文指導を行う。</p> <p>(吉田美幸) 子どもとその家族に対する健康生活支援に関する文献検討を行い、自己の研究課題を明らかにする。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(石田圭二) 中枢神経疾患に伴う神経系疾患における上肢機能障害とそのリハビリテーションについて、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(寺島喜代子) 病院、高齢者施設、居宅など多様な生活の場の、さまざまな健康レベルの高齢者の健康生活支援に関して、文献検討やフィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。課題の解決に向けて研究計画を立てる。倫理的配慮に関して熟考・記述し、倫理審査に申請する。研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(近藤仁) スポーツ傷害に対する受傷機転や発生要因の検証、客観的機能評価に対する信憑性および再現性について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(近田真美子) 精神保健上の問題を抱えた人々に対する実践について文献検討を行い、自己の研究課題を明らかにする。研究計画書を立案し、データ収集、分析、考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(川端香) 中枢神経疾患に伴う高次脳機能障害の病態理解、効果的な治療方法や支援方法などに関する研究において、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。</p> <p>(藤田和樹) 中枢神経障害患者の運動機能障害について、筋電図分析などの運動生理学的な観点から科学的に評価し、そのメカニズムの解明や効果的な治療法の開発等に関する研究指導を行う。</p>	前頁の続き

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	<p>(吉江由加里) あらゆる健康問題からの回復における課題解決に向けて、InterProfessional Work（専門職連携実践：IPW）を促進するための教育・支援に関する研究において、研究計画に基づき、データ収集・分析、考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(塩見格一) タブレットや VRゴーグル等をプラットフォームとして身体及び精神の機能や状況の評価するパフォーマンステスト設計・試作し、評価においてはテストログに併せて脈波や音声等を収録し、障がい者を含む被験者のワークロードやストレス等の分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(猪口徳一) 脳の発達・老化に伴う変化や、関連する疾病・健康問題に対して、正常な脳の仕組みや病態の解明に関する基礎研究から疾病予防や健康増進のための指標探索などの応用研究までを対象に、形態学的・生化学的解析や遺伝子発現解析を中心とした研究計画を立案し、実験・データ収集・分析・考察といった論文作成の過程を指導する。</p> <p>(保屋野健悟) コミュニケーション機能、高次脳機能、摂食嚥下機能について、基礎研究や症例研究等を通してメカニズムの解明や新たな治療介入等に関する研究指導を行う。</p> <p>(東伸英) 運動器障害やスポーツ傷害に関する理学療法評価、治療や傷害予防の介入効果について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文指導を行う。</p> <p>(佐藤万美子) 脳血管障害による身体障害者や高次脳機能障害者が、社会復帰を目指す際における問題点に注目し、科学的分析を行った結果に基づいたリハビリテーションや支援方法について検討するための研究指導を行う。</p>	前頁の続き